

12. 6院内集会国会議員本人を前に全国署名180万筆超を中間集約を報告 200人を超える父母 高校生 教職員を前に議員も熱い連帯のあいさつ繰り広げる

院内集会その2

12月6日院内集会は、全国からの参加者も200人を超え、国会議員(関係者)も108人(本院50人)が参加。10月衆議院選挙を経て、新たな議員の参加も増加しました。高校生の訴えに応え自身の成育歴、子育てと重ねた熱い連帯のあいさつがつつきました。そうした中、集会終了時には180万筆を超過する中間集約数が議員に報告できました。ここを結節点に2月まで自主目標400万筆超過をめざし全国署名のとりくみに注力しましょう!!



藤原規真議員 井上哲士議員 竹内千春議員 牧義明議員 八幡愛議員 西村智奈美議員 丹野みどり議員 伊藤岳議員 船後靖彦議員 日野紗里亜議員



おおたけり議員 橋本慧悟議員 本村伸子議員 堀川あきこ議員 柴山昌彦議員 平岩征樹議員 松田功議員 升田世喜男議員 水沼秀幸議員 杉村慎治議員



三宅伸悟議員 菊田真紀子議員 福島みずほ議員 岡田華子議員 吉良よし子議員 安藤じゅん子議員 大椿ゆづり議員 水野もと子議員 森山浩行議員 近藤昭一議員



田中和徳議員 山崎誠議員 新妻秀規議員 小沼巧議員

ご登壇くださった
34人の国会議員さんの
ごあいさつ (大意・抜粋)

森山浩行議員のお写真につきまして
事務局の不手際により撮影が叶いませんでした。そのため立憲民主党さんのHPより引用させていただきます。心よりお詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。

多様性が謳われる社会。教育も同様に多様性が求められている。だから私学が必要(藤原議員)。公私ともに無償化を求めるのがみんなの声。2016年に18歳選挙権が実施され、当時の選挙で給付型奨学金を全政党が公約に掲げ実現した(井上議員)。国内で格差が大きいことは国政の問題で、解消が必要。所得制限の壁そのものをなくすべき(牧議員)。短大の教員をしていた時代に経済的理由で退学していく学生を何人も見た。いたたまれなかった(竹内議員)。いろいろな理由から私学を選択する生徒がいる。学費の心配なく進路として私学も選択できるよう頑張る(八幡議員)。高校生の切実な訴えをはじめ、こうして毎年大勢あつまってくる、この思いを受け止めて頑張りたいと思う(西村議員)。国力を増強するのは日本の場合は教育のはず、「親ガチャ」「自治体ガチャ」ということがなくなることをめざす(丹野議員)。高校生に私学助成署名の心配させる国でいいのか？武器の爆買いよりも教育費へ予算を使う国をめざす(伊藤議員)。未来を担うことどもたちに学費の心配をさせるのは、罪のない生徒に「罰」を与えるようなもの。文教科学委員として教育無償化をめざしてがんばる(船後議員)。県内でも学費支援の標準化を訴えてきた。4人の子育てで教育費のことを考えると頭が痛い。みなさんとともに頑張る(日野議員)。県議会議員時代も学費問題の切実な訴えを頂戴した。大きくなっている自治体間格差を解消していきたい(おおたけ議員)。どこに生まれても学びたい教育が選び安心して生きていけるか、そういう国にしていきたい、というのが政治に踏み出すきっかけだった(橋本議員)。ひとり親世帯の65%が「生活が苦しい」と回答、教育費負担が1番の原因。誰もが安心して学べ、生活していけるよう頑張る(本村議員)。京都私学フェスに参加。国会議員と高校生のトークセッションで「議員学費のためにアルバイトしたことはあるか？」という質問があった。それだけ切実。教育は人権(堀川議員)。私学は建学の精神に基づいた独自の教育に良さがある。その良さを誰もが選べるように、私学を支援していきたい(柴山議員)。子どもを私学に通わせている。学費の問題は切実。地域間の格差は問題。国の責任で支えるべき問題である(平岩議員)。高校時代は許可をもらってアルバイトをし、大学は夜学。高校での学びは将来にとって重要なもの。安心して学べるようにしていく必要がある(松田議員)。こういう問題(学費格差)が起きていることを国は取るべき、信号が1つ・スーパーがないといった地方の問題とともに問題にしていきたい(升田議員)。奨学金の返納中。奨学金が未来を縛るものになってはいけない。当事者としてみなさんといっしょにがんばりたい(水沼議員)。小2、小5の子どもの父、共働きでないと学費を賄えない。生まれた地域で格差があつてはため。この国で良かったと思えるようにしていきたい(杉村議員)。子ども食堂へ「夏休みの宿題の絵日記で書くことが無いんだ」という話を聞いた。経済的な理由で学びが差別されてはいけない(三宅議員)。県立高校80校中22校を廃校する計画が出た。経済的理由で私学を選べない生徒がいる。野党が多くなった事で力を合わせれば「無償化」も実現できる(菊田議員)。全国の国公立の無償化には3兆円が必要という試算。安いとはいえないが、優先されるべき。大学無償化の前に高校無償化実現を(福島議員)。地方の高校生が経済的理由で学ぶことを諦めなくてはならないということがなくなるよう、頑張る(岡田議員)。財政的に厳しいというが、軍事費に8兆円を出している。全部回せとはいえないが1104億円だけでも状況はだいぶ変わる。共に頑張りたい(吉良議員)。学校内格差は問題。県知事とともにこの問題解消に動いていきたい。学費問題の解消は本来国が手当すべきこと(安藤議員)。大阪の「無償化」は無償化していないから、高校生がこうした運動を続ける。新入生の数が読めないから専任教員の数が増えないというのはおかしい(大椿議員)。オランダへ留学した際、教育費は無償だった。どうしたらこうできるのか。お金の心配なく学べる国にしていきたい(水野議員)。大阪をめざすようなことがあつてはダメ。高校無償化を実現させた当時、「バラマキ」だと批判した人がいたが、現在は「無償化反対」を言う人はいない(森山議員)。学びたい人間が学べるようにするのは当たり前。世界で4番目の経済大国なのだからできない事はない。どこにお金を使わせるかだ(近藤議員)。多摩川1本挟んで、地方財政の差を味わっている。国が調整すべきだ。公私平等になるよう頑張る(田中議員)。教育はベーシックサービスであり、子ども一人ひとりの特性にあった教育を格差なく選択できるようにすることが必要(山崎議員)。自治体間格差が起きている。愛知はかなりの措置をしているが、隣の三重県、岐阜県はそうはなっていない。この格差解消に向けて頑張る(新妻議員)。時代の制約で「女性は学ぶ必要ない」と止められた祖母が、母のための資金を孫の自分に充ててくれ中学校・高校・大学と私学だった。誰もが学べることをめざす(小沼議員)。

国向け署名の締切は、2月中旬!! それまで**昨年筆数を上回るよう国向け署名の集約に注力しましょう!!**